

実践報告

望ましい社会福祉士の実習報告会・実習指導者会議とは？

—病院の実習指導者からの示唆—

赤澤 輝和

What is a Desirable Certified Social Worker Practice Debriefing and
Practice Supervisor Meeting?

Suggestions from Practical Trainers in Hospitals

Terukazu AKAZAWA

要約：本論文の目的は、①実習教育実践として2021年度医療福祉分野実習報告会・実習指導者会議を開催し、実習指導者からの評価と意向を明らかにすること、②2021年度の経験を踏まえて、2022年度の開催について検討することである。2021年度実習報告会・実習指導者会議はZoomで開催され、参加もしくは録画視聴した実習指導者を対象にアンケート調査を実施した。その結果、実習指導者の全般的評価と今後の意向に関する評価は高かったが、オンラインの特徴や機能を用いた方法については改善や工夫の必要性が示唆された。自由記述からは、望ましい開催時期や時間帯が示され、希望する内容は5サブカテゴリー、開催の意義については2サブカテゴリーに分類された。これらの得られた知見から、2022年度開催に向けた方法やプログラムを提案した。社会福祉士養成の教育体制として、実習報告会・実習指導者会議はさらに改善していく必要がある。

キーワード：社会福祉士、実習報告会・実習指導者会議、病院の実習指導者

1. はじめに

2019（令和元）年6月、厚生労働省より「社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて（以下、新カリキュラム）」が公表され、地域共生社会の実現や複合化・複雑化した課題に対応できる実践能力の習得が社会福祉士養成に求められている（厚生労働省2019a）。対応したカリキュラム見直しのひとつとして、実習時間を180時間から240時間に拡充し、機能が異なる2カ所（うち1カ所は180時間以上の実習）以上で実習を行

うことがある。そのため、これまで以上に実習成果や実習先と養成校の連携がより重要となることが予測される¹⁾。

実習成果の報告の機会として、実習報告会がある。新カリキュラムにおいてもソーシャルワーク実習指導の教育に含むべき事項として「実習の評価及び全体総括会」があり（厚生労働省2019b）、教育ガイドラインでは実習報告会が行動目標として記載されている（日本ソーシャルワーク教育学校連盟2021）。実習報告会の形態は様々であり（日

本社会福祉士養成校協会 2009), 実習指導者も参加することが望ましいとされ, 実習指導者会議も同時に開催している場合がある(兵庫県社会福祉士会 2011)。実習指導者会議とは, 実習打ち合わせ会議, スーパーバイザー会議などとも呼ばれ, 実習前後²⁾で行われることが多く, 実習指導者と養成校の教員による実習指導に関する打ち合わせを意味している(福山和女・米本秀仁 2007: 日本医療社会事業協会 2008)。

実習報告会・実習指導者会議は, 各養成校で開催はされているが, その実態は十分に明らかになっていない。病院の実習指導者を対象とした報告では, 16 病院で 9 校の実習を受け入れており, そのすべてで実習指導者も参加する実習報告会・実習指導者会議の開催, さらに実習報告集の発行が行われていた(赤澤 2017)。しかし, 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科(以下, 本学科)では, 実習指導者も含めた実習報告会・実習指導者会議の開催, 実習報告集の発行は行っていない。実習報告会は, 本学科全体で行い, 実習報告集にあたる総括レポートはソーシャルワーク実習指導の課題として完結し, 実習指導者会議の機能は実習指導者と教員が実習先ごと個別に行っているのが現状である。

今回, 病院の実習指導者に参加を依頼した実習報告会・実習指導者会議を開催する機会を得た。そこで, 本論文の目的は次の 2 点である。第 1 に, 実習教育実践として 2021 年度医療福祉分野実習報告会・実習指導者会議を開催し, 実習指導者からの評価と意向を明らかにすることである。第 2 に 2021 年度の経験を踏まえて, 2022 年度の開催について検討することである。

2. 方法

(1) 2021 年度医療福祉分野の実習

3 年生 8 名が合計 12 ヶ所の病院で実習を行った。実習形態はすべて現場実習であった。実習期

間は 2021 年 6 月 14 日から 11 月 17 日の中で行われた。実習先病院の背景表 1 に示す。

表 1 実習先病院の背景 (n=12)

		n
許可病床数	平均±標準偏差	480.8 ± 229.2
MSW 人数	平均±標準偏差	8.8 ± 3.0
所在地	東京都	5
	神奈川県	5
	埼玉県	2
病院類型	一般病院	6
	地域医療支援病院	5
	特定機能病院	1
病床機能	高度急性期	8
	急性期	8
	回復期	4
	慢性期	3
実習時間	60 時間	4
	120 時間	4
	180 時間	4

(2) 実習報告会・実習指導者会議開催までの経緯

2017 年度以降³⁾, 本学科の実習報告会は社会福祉士・精神保健福祉士合同で 12 月の第 3 木曜日の 3・4 限に行われてきた。基本プログラムとして, 前半は医療福祉・児童福祉・障害福祉・高齢福祉・地域福祉・精神保健福祉の各分野代表者による実習報告, 後半は実習を行った学生と下級生によるグループディスカッションが行われている。参加者は, 当該年度に実習を行った 3・4 年生, 次年度実習を行う 2 年生, 社会福祉とキャリアを履修する 1 年生, 学科教員である。しかし, 2021 年度の実習報告会は, 実習担当教員の校務の関係で本学科全体での開催が困難となり, 各実習分野で行うことになった。

医療福祉分野では, 例年学科実習報告会に先立ち, 分野内で実習報告会を行ってきた。開催方法はソーシャルワーク実習指導Ⅲの授業内とし, 時間割上支障がなければ次年度実習を行う 2 年生も参加する。開催時期は 11 月末頃のため, 目的は

実習の振り返りであり、実習最終成果に向けた実習事後指導のステップのひとつである。実習最終成果は、最終授業日に報告され、その後に実習報告レポートとしてまとめられる。

2021年度は各実習分野で実習報告会を行うことになったため、実習最終成果報告の機会と位置付け、ソーシャルワーク実習指導Ⅲの最終授業日1月21日に設定した。そこで、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）により定着したZoomを用いることにより、実習指導者も参加できないかと考え、急遽実習指導者に案内を行うことにした。すなわち、授業内で行う実習報告会に都合が合えば実習指導者にも参加いただく構造とし、試験的開催とした。また、実習指導者に参加依頼を行うため、実習報告会後に教員との意見交換を目的とした実習指導者会議を設定した。

(3) 実習報告会・実習指導者会議プログラム

実習報告会・実習指導者会議はZoom開催とした。Zoomは録画し、後日配信も行うことにした。実習報告会は、本学科実習報告会に準じて1人発表8分・質疑応答5分と設定した。実習指導者会議は、冒頭教員より話題提供を行い、その後はフリーディスカッションとして企画した。プログラムを表2に示す。

表2 2021年度医療福祉分野実習報告会・実習指導者会議プログラム

09:25~09:30	開会挨拶
09:30~10:30	実習報告会① (発表8分・質疑応答5分×4名)
10:30~10:40	休憩
10:40~11:40	実習報告会② (発表8分・質疑応答5分×4名)
11:40~11:45	閉会挨拶・学生退室
11:45~12:30	実習指導者会議

実習指導者へは実習報告会・実習指導者会議開催について、第1報として2022年1月4日に開催案内および出欠連絡依頼を郵送にて行った。第2報として、当日に使用するプログラム集を2022年1月17日に発送した。プログラム集には、Zoomの入退室とビデオのON・OFFは自由であること、可能であれば担当学生の発表にはコメントをいただきたいことを記載した。また、学生ごと詳細の発表時間も明記した。

(4) アンケート調査の内容と方法

実習報告会・実習指導者会議終了後、2022年1月31日に実習指導者にアンケート用紙を郵送した。匿名回答とし、2022年2月28日までに同封筒による返送を依頼した。また、当日参加できなかった実習指導者については、録画視聴後に回答を求めた。

アンケート調査の内容は、①実習報告会・実習指導者会議に関する評価(13項目)、②今後に関する意向(4項目)、③開催曜日、時間帯、内容に関する自由記述、④実習報告会・実習指導者会議に関する自由記述であった。

分析方法として、量的データについては単純集計を行った。自由記述に関しては、内容分析の手法を参考に分析した。

(5) 倫理的配慮

日本女子大学人を対象とした実験研究に関する倫理委員会の承認を得て行った(課題番号第556号)。アンケート調査は、実習報告会・実習指導者会議の改善を目的とした実習教育の一環として行った。研究利用に際し、「病院におけるソーシャルワーク実習の実態－学生(卒業生)・実習指導者を対象とした後方視的研究－」として情報開示文書をもとに、研究対象者の要望によりオプトアウトできるように配慮した。

3. 結果

実習報告会・実習指導者会議は1月21日に開催し、実習を行った12カ所中10カ所の病院の実習指導者が参加した。すべて同時双方向による参加は5カ所、一部参加は5カ所であった。このうちアンケートの回答は8カ所の実習指導者より得られた。

(1) 実習報告会・実習指導者会議の開催

開会挨拶および実習報告会はプログラム通り進行され、実習指導者会議は17分超過となった。

実習報告会の発表内容は、主に実習先の概要、実習計画、実習内容、実習での学び、今後の課題について発表された。質疑応答では、学生からの質問に加え、担当実習指導者よりコメントを得た。

実習指導者会議では、導入として教員より「目白キャンパス移転について」、「実習と就職の現状について」、「実習先の配属について」、「新カリキュラムにおける実習について」説明し、その後はフリーディスカッションとした。内容は、実習指導者より発言のあった「①新カリキュラムについて」、「②実習中に学生から何を観たらよいかわからないという経験について」、「③実習プログラムの意図の事前説明について」、「④学生が印象に残るプログラムについて」、「⑤医療ソーシャルワーカーとして就職する前にやっておきたいこと、やっておいてよかったこと」などについて意

見交換を行った。

実習報告会・実習指導者会議終了後、上記②③④の意見交換内容は学生にヒアリングを行い、⑤については卒業生医療ソーシャルワーカーにアンケート調査を行った。その結果をまとめ、2022年1月31日に当日のZoom録画データへのアクセス方法案内、およびアンケートの依頼と合わせて発送した。

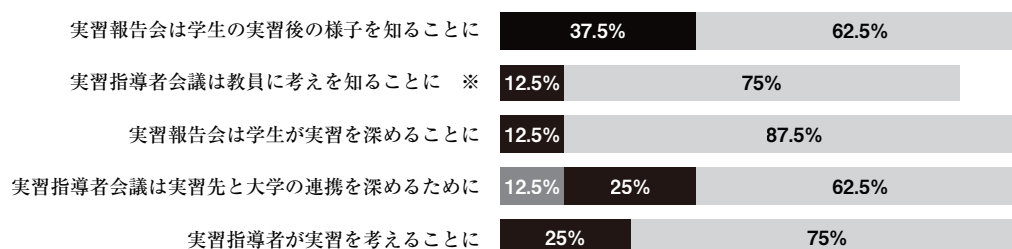
(2) 実習報告会・実習指導者会議に関する評価

実習報告会・実習指導者会議の全般的評価(図1)、Zoomによるオンライン開催方法の評価(図2)、所要時間の評価(図3)を示す。全般的評価では、5項目のうち1項目を除いて「役に立つ」または「とても役に立つ」と評価された。開催方法の評価では、すべての項目で「よい」、「とてもよい」の評価が85%以上であったが、「どちらでもない」が2項目、「あまりよくない」が1項目に認められた。所要時間の評価では、実習報告会、実習指導者会議の各項目ではすべて「ちょうどよい」と評価された。しかし、全体では「短い」、「ちょうどよい」、「長い」のすべてに評価が分かれた。

(3) 今後の開催に関する意向

今後の開催に対する意向(図4)、今後の開催形式に対する意向(図5)、今後の参加に対する意向(図6)を示す。開催の意向は、すべて「開

図1 実習報告会・実習指導者会議の全体的評価



■ 役に立たない □ あまり役に立たない ■ 少し役に立つ ■ 役に立つ ■ とても役に立つ

※欠損値があるため100%にはならない

催したほうがよい」, 「できれば開催したほうがよい」と回答した。開催形式の意向については, 「Zoom と対面のハイブリッド」が最も多く, 「Zoom によるオンライン」と「対面」の回答もあった。参加の意向は, すべて「できれば参加したい」,

「是非参加したい」と回答し, 実習報告会と実習指導者会議を比較した場合, 「是非参加したい」と評価した割合は実習報告会のほうが多かった。

図2 Zoomによるオンライン開催方法の評価

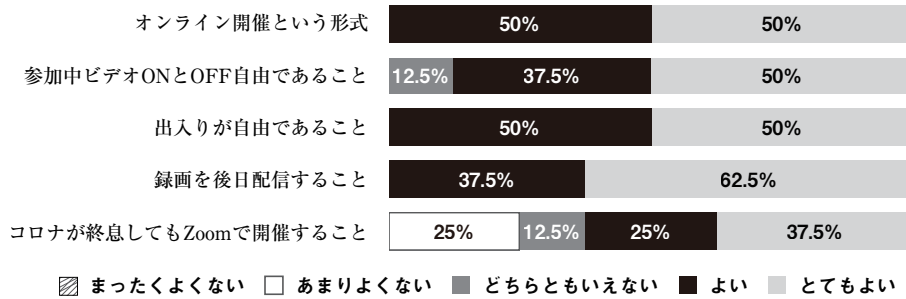


図3 実習報告会・実習指導者会議所要時間の評価

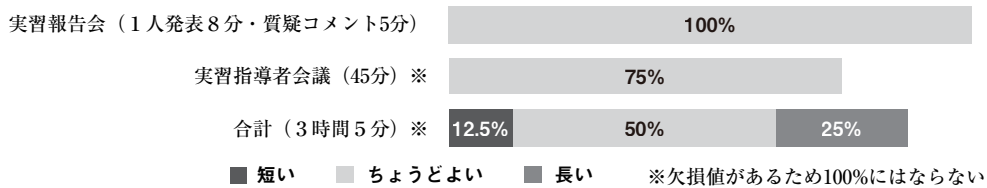


図4 今後の開催に対する意向

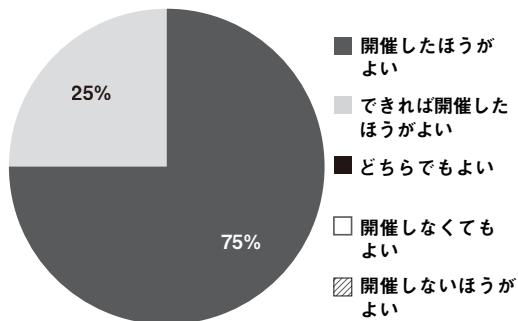


図5 今後の開催形式に対する意向

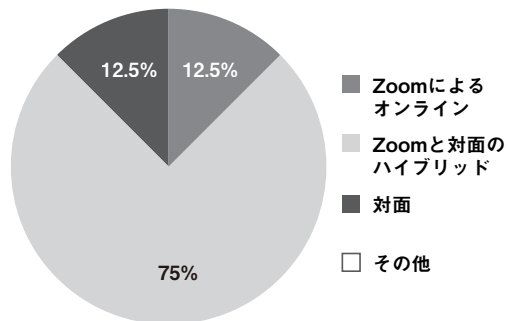
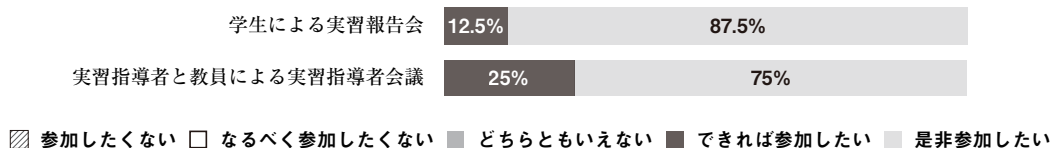


図6 今後の参加に関する意向



(4) 実習報告会・実習指導者会議に関する

自由記述(表3)

自由記述は、開催案内時期、開催曜日、開催曜日、開催時間帯、希望する内容、その他の意見や感想等に分け、項目ごと記載を求めた。

開催案内時期は、1ヵ月以上前が最も多かった。開催曜日は平日、月曜日以外、希望無しについては複数名が記載し、開催時間帯は「希望無し」と「勤務時間帯」で半数以上を占めた。希望する内容については、5サブカテゴリーに分類された。

その他の意見や感想は、実習報告会・実習指導者会議の意義という1つのカテゴリーに集約され、2サブカテゴリーに分類された。

4. 考察

本論文では、医療福祉分野実習報告会・実習指導者会議を開催し、評価と意向から重要な2つの知見を得た。

第1に実習報告会・実習指導者会議に関する評価、および今後の開催の意向を明らかにしたこと

表3 実習報告会・実習指導者会議に関する自由記述

	n	記述内容例
望ましい開催案内時期		
1ヵ月以上前	5	1ヵ月以上前にご案内いただけるとありがたい
2ヵ月前	4	開催日2ヵ月前頃だとスケジュール調整しやすい
2週間前	1	今回のご案内で問題ありません
望ましい開催曜日		
平日	2	平日
月曜日以外	2	月曜は避けたい
希望なし	2	問いません
水曜日	1	水曜日が参加しやすいです
土曜日以外	1	土曜日は特に参加が難しい
望ましい開催時間帯		
希望無し	2	特になし
勤務時間帯	2	9時~17時
午後	2	午後の時間帯だとありがたいです
午前	1	午後はケース対応していることが多いので午前中がよい
希望する内容		
実習プログラムの共有	3	実習プログラムや使用しているツールなど可能な範囲で共有できるとありがたいです
実習指導者同士の意見交換	3	他病院の実習指導者との意見交換
教員との意見交換	3	教員との話し合いの場
学生と対話	3	学生さんとの直接的な対話も出来るといいかと思います
3者で実習の振り返り	1	実習プログラムについて他実習生、教員、他実習指導者含めて話し合えればと思いました
実習報告会・実習指導者会議の意義		
学生の成長の背景を理解できる	6	学生さんが実習で得た学びをどのように深め考察していったか、またそのプロセスに先生が学生さんの特性を捉え指導されてこられたことが伝わってきました
実習指導を深める機会になる	4	他病院の実習プログラムや取り組みを知ることができ、実習指導者としても学び合えました

である。全般的評価では、5項目中1項目を除き「役に立つ」または「とても役に立つ」と評価されていた。また、今後の開催意向も「開催したほうがよい」、「できれば開催したほうがよい」であった。この要因としては、実習指導者にとっては学生の成長を確認できたことが大きいと考える。実際、自由記述より得られた実習報告会・実習指導者会議の意義として「学生の成長の背景を理解できる」がある。実習指導者にとって実習が学生の成長にどのように寄与し、改善すべき点の検討を行うことは、実習受け入れ評価の機会となることが指摘されている（岡田ほか 2002）。そのため、病院の実習指導者が多く受講する社会福祉士実習指導者講習会テキストでも、業務負担が大きくても大切な場であることが強調されている（日本医療社会事業協会 2008）。そして、「実習指導を深める機会になる」として、他の病院の実習指導者も参加する特性を生かし、実習プログラムの共有や実習指導者同士の意見交換などの必要性が示された。

一方、一部低い評価もある。全般的評価のうち「実習指導者会議は実習先との連携を深めるために」は、1名「少し役に立つ」と評価した。また、今後の参加に対する意向の中では「学生に対する実習報告会」と比較し「実習指導者と教員による実習指導者会議」は「是非参加したい」と評価した実習指導者は少なかった。この理由としては、実習指導者会議を行う場合は何をすることが重要であること、個別に教員とコミュニケーションをとる中で連携できていると評価していることが先行研究で明らかにされている（赤澤 2017）。開催所要時間は、実習報告会において一人ひとりの発表時間、および実習指導者会議は適切であるが、全体については改善の余地がある可能性が示唆された。

開催形式については、COVID-19 流行下の中で定着してきた Zoom 等によるオンライン開催形式は感染リスクが低減しても一定のニーズが見込ま

れると考える。一方、オンライン開催は一部の参加者から否定的であることが本研究からも重ねて支持された（阿登ほか 2021）。ソーシャルワーカーが受講するオンライン研修においては、その特徴としてメリットよりデメリットが多く語られており、今後の提案について報告されている（保正 2020）。また、他専門職においてもオンライン研修の知見が蓄積されてきている（星ほか 2021: 竹森ほか 2022）。これらの知見をもとに、オンラインの利点を生かした内容や方法を検討していく必要性が示唆された。

第2に、2021年度の実習報告会・実習指導者会議に関する評価と意向に基づき、2022年度に向けて改善したプログラム（表4）を提案し、連動して実習報告集の発行も行うことにある。日程は2023年2月17日金曜日とし、2ヵ月前に開催日および対面とZoomのハイブリッド開催であることを連絡した。開催時間は14時30分から17時の2時間30分、所要時間を短縮するため実習報告会は個別発表から総合発表に変更した。個別発表については、総合発表内で1人1分要点のみ発表し、詳細は新たに作成した医療福祉分野実習報告集で確認できるよう事前に送付する。その結果、希望があった実習指導者と学生の意見交換会を追加することができ、2021年度時間を超過した実習指導者会議を延長することも可能となった。評価については、開催後まで待たなければならない。

表4 2022年度医療福祉分野実習報告会・実習指導者会議プログラム

14:30~14:35	開会挨拶
14:35~15:10	実習報告会 (発表20分・質疑応答15分)
15:10~15:40	実習指導者と学生の意見交換会
15:40~15:55	休憩・学生退室
15:55~16:55	実習指導者会議
16:55~17:00	閉会挨拶

本論文の限界として、一養成校、単一年度の病院の実習指導者を対象としているため直ちに一般化することはできない。また、現状では当該年度の実習指導者のみを対象としている。すなわち、2021年度の実習指導者の評価に基づく改善プログラムは、2022年度の実習指導者の評価とは異なる可能性がある。さらに、Zoomで同時双方向参加と録画視聴、Zoomで全参加と一部参加などの参加状況に関する回答は得ていないため、その影響を明らかにすることはできない。しかし、実習指導者が参加・録画視聴し、評価を得たことは、本学における新カリキュラムの教育体制充実に向けた重要な一歩として価値があると考えられる。

5. おわりに

2021年度の実習指導者に参加を依頼した実習報告会・実習指導者会議を開催し、その評価と今後の意向が明らかになった。また、改善点を反映させた2022年度の実習報告会・実習指導者会議の開催とプログラムを提示した。新カリキュラムが目指す社会福祉士養成を実現するための戦略のひとつとして、実習報告会・実習指導者会議をさらに改善していく必要がある。

注

- 1) 本学科では新カリキュラムが適用される2021年度入学生の実習指導・実習は、2023年度後期から開始される。
- 2) 本論文の実習指導者会議は実習終了後に開催したものである。
- 3) 2016年度以前、また少なくとも筆者が着任した2013年度以降は、ソーシャルワーク実習指導(社会福祉援助技術現場実習指導)Ⅲの最終授業日、すなわち1月中旬から下旬頃に行っていた。

謝辞

COVID-19流行下の中、実習を受け入れてくださいました病院の実習指導者および関係者の皆様に深謝いたします。

文献

- 赤澤輝和(2017)「望ましい社会福祉士の実習依頼とは? - 病院の実習指導者の意向」『社会福祉』58, 85-93.
- 阿登大次郎・井上知美・八代哲也・ほか(2021)「Zoomを活用した薬学実務実習における病院・薬局・大学合同オンライン症例解析報告会の実施とその評価」『薬学教育』5, doi: 10.24489/jjphe.2020-064.
- 保正友子(2022)「コロナ禍時代に経験したオンライン・システムの研修効果-ソーシャルワーカーとしての実践能力は高められたか」『ソーシャルワーク実践研究』16, 21-31.
- 星紫織・堀内寿志・橋本賢勇・ほか(2021)「WEBシステムを利用したオンライン研修の試み」『医学検査』70(1), 123-127.
- 兵庫県社会福祉士会監修(2011)『ソーシャルワーク実習-養成校と実習先との連携のために』久美.
- 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保室(2019a)「社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」(<https://www.mhlw.go.jp/content/000523365.pdf>, 2023.1.21).
- 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室(2019b)「社会福祉士養成課程のカリキュラム(令和元年度改正)」(<https://www.mhlw.go.jp/content/000606419.pdf>, 2023.1.21).
- 日本医療社会事業協会監修(2008)『新医療ソーシャルワーク実習-社会福祉士などの養成教育のために』川島書店.
- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)「ソーシャルワーク実習指導・実習のための教育ガイドライン(2021年8月改訂版)」(http://jaswe.jp/doc/202108_jisshu_guideline.pdf, 2023.1.21).

日本社会福祉士養成校協会監修（2009）『社会福祉士相談援助実習』中央法規．

岡田まり・柏女霊峰・深谷美枝・ほか編（2002）『ソーシャルワーク実習』有斐閣．

竹森志穂・宇都宮宏子・河野政子・ほか（2022）「在宅療養移行支援に関わる看護師のためのオンライン研修の取り組み」『聖路加国際大学紀要』8, 36-41.